答辞

柔らかな日差しが心地よく、春の訪れを感じられるようになりました。今日この日に、私たちの卒業証書授与式を挙行していただき、心より感謝申し上げます。

これからの未来への大きな期待にも不安が入り混じる中ではありますが、先生方や保護者の方々に支えていただき、こうして無事旅立ちの日を迎えることができました。皆様にご臨席していただく中で卒業できること、卒業生一同を代表して、厚く御礼申し上げます。

思い起こせば三年前の春、真新しい制服に身を包み、尚絅学院高校の門をたたきました。

顔も名前も知らない人たちとうまくなじめるだろうか、聖書や賛美歌が身近にあるという生活はどのようなものだろうか、などと大きな不安を抱きながらも、

三年間通うことになる校舎に実際に足を踏み入れると、この先に広がる学校生活に大きな夢を抱かずにはいられなかったことを今でも鮮明に覚えています。

そこから始まった、一年生としての生活は、日々の登下校、友達と過ごす昼休み、勉強や部活動などの中にある、今では当たり前になっている小さな事さえも、自由を得て大人になった証のようで、とても新鮮でした。

高校生活に少し慣れてきた二年生。部活動や委員会を始めとした生徒会活動でいつも自分たちの前にいてくれた先輩方が引退し、自分たちが様々な活動で先頭に立つ機会が増え、チームを引っ張っていく立場となりました。今まで感じることのなかった先輩としてのプレッシャーや日々様々な問題にぶつかりながらも仲間とともに困難を乗り越えていく経験は、おのおのの成長につながりました。

そして、高校生活一番の行事、修学旅行がありました。コース別の修学旅行はそれぞれ長崎、関西、静岡に行きました。

私は、関西方面に行きました。清水寺や金閣寺がとてもきれいでたくさん写真をとったこと、ユニバーサルスタジオジャパンに行って友達とお揃いのカチューシャをして遊んだこと、バスやホテルでいろんな話をしたことなど、それらはすべてとても楽しく普段の学校生活では味わえないものでした。また、班ごとの探究テーマに沿った自主研修の計画を立てるのは、思ったよりも難しく、当日まで緊張していましたが、実際に行ってみると、行くところすべてが魅力的で充実した学びの時間となりました。

そして二年生も終わりに差し掛かり、三年生になるための心構えをしていた、二月二十八日の放課後、私たちは約三週間の休校を言い渡されました。今まで経験した事のない長期の臨時休校にとても驚き、そこからの生活はとても不安定で苦しい日々が続きましたが、この異常な生活はすぐに終わり、また三年生が始まるころにはいつもの日常が戻ってくると思っていました。ですが現実はそう甘くなく、春休みが終わる前日、休校延長の連絡がありました。

そこからまた、辛い日々が始まりました。

受験生としてのカウントダウンが始まっている中で思うように進まない勉強。そして気分転換にと外出することが許されない中で、友達や先生と会えない日々。休校期間が終わる二、三日前にとどく休校延長の連絡。すべてがめちゃくちゃで今までに感じたことのない焦りや葛藤が心を覆い尽くしていきました。

ですが、友達と励ましあいながら一緒に課題をやったり、クラッシー上で先生とのやり取りをしたりすることに心を救われ、徐々に自分の生活のペースがつかむことができ、臨時休校の後半は有意義な時間を過ごすことができたと思っています。

そして、六月一日、通常の約二か月遅れで三年生としての生活がスタートしました。ところがやっと始まった生活は今までの日常とはかけ離れた生活で、マスクをつけるのは当たり前、アルコール消毒をする機会も増え、あれもだめ、これもだめと、今まで当たり前に出来ていたことが出来なくなり、行事もほとんど中止になりました。

しかし、そんな困難な状況下であるにも拘わらず、生徒一人ひとりの「行事をやりたい」という署名にのせられた思いを先生方が受け止めてくださり、体育祭を開催することができました。

既存の行事を自分たちなりにアレンジするのではなく、企画からすべて自分たちで挑んだこの行事を成し遂げたことに、今後の人生においても目の前に立ちはだかる高い壁に挑むことの大切さを教えられたような気がします。また、この三年生のクラスでは、大きな思い出をつくる機会が失われたと思っていましたが、体育祭の開催により、クラス全員で一致団結して全力で楽しむことができました。

尚絅での三年間は、私たちにたくさんの実り豊かな出会いを授けてくれました。

時には厳しく、また優しく私たちを導いてくださった先生方。何度も叱られましたが、部活動や進路のことで悩んでいるときにはたくさん相談に乗っていただきました。たくさんの愛情ありがとうございました。

そして、この尚絅で出会い、ともに同じ時間を過ごした友達。休み時間や放課後に一緒に笑いあったり、ふざけあったりした日々は一生忘れません。本当に楽しかった。第一志望の高校に落ち、悔しい思いを抱えながら入学した私が、今では、尚絅に入学してよかったと思えるのは、

先生や友だちのおかげだと、自信をもって言うことができます。本当にありがとうございました。

そんな三年間を、いつもそばで見守ってくれた、お父さん、お母さん。毎日、朝早くから手作りのお弁当を作ってくれたり、送り迎えをしてくれたり、私たちの進路を応援してくれてありがとう。なかなか素直になれず、反抗してしまうこともあったけど、心から進みたいと望んだ道にこれから進むことができるのは、まぎれもなくお父さんとお母さんのおかげです。

産んでくれてありがとう。一八年間育ててくれてありがとう。

今日で私たちはこの学び舎を卒業し、これからはみんな別々の道を歩むことになりますが、内面を豊かに、謙虚な心をもって、他者と共に生き、社会に貢献できるような人になれるようにこれからも精進していこうと思います。最後に校長先生はじめ、諸先生方のご健勝と、尚絅学院高等学校のより一層のご発展を心よりお祈りして、答辞といたします。

二〇二一年三月一日

卒業生代表　M・H